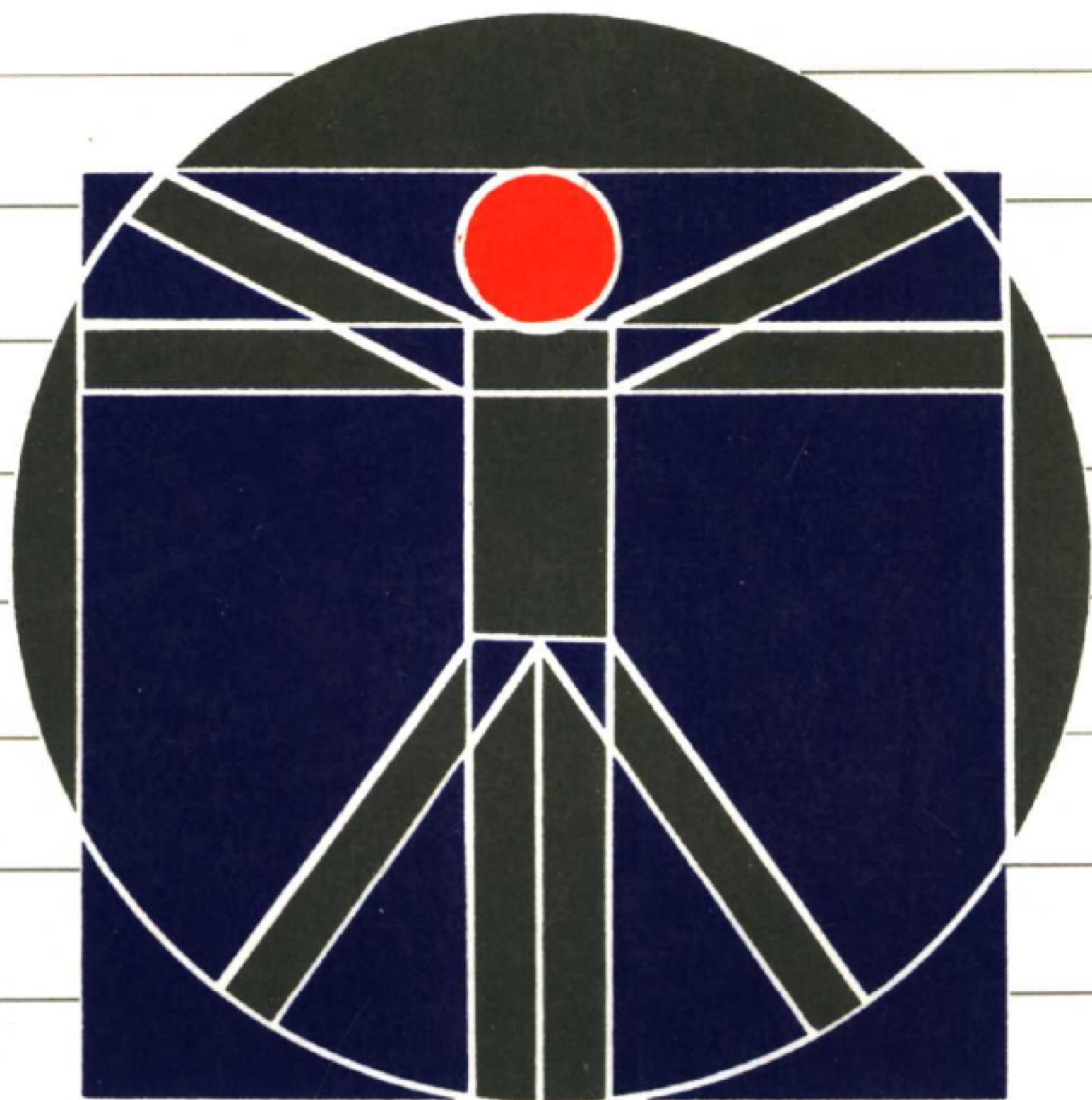
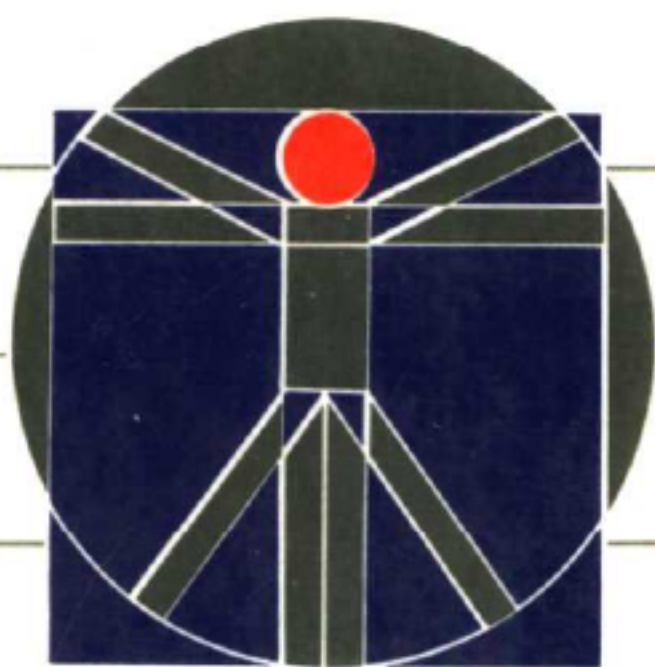


一九九一年
中日體育運動科學研討會
報告書



國立體育學院 編印

中華民國八十一年六月



1991 年中日體育運動科學研討會



教育部施金池次長致贈紀念品予中京大學教授江橋慎四郎博士



1991 年中日體育運動科學研討會一行往教育部拜會
教育部施金池次長，及趙麗雲司長。



邱院長金松主持開幕式



日方資深名學者江橋慎四郎博士開幕式中致詞



團體合影之二 邱金松院長之左為教育部曾德錦副司長，右為體育界前輩吳文忠教授



研討會參加者合影留念



研討會學員聆聽講演之一景



施次長與日籍講員交換名片。

序

本院自創校以來，即以追求學術研究為設校之重要目標之一，因此，平日除鼓勵師生研究著述之外，每年均定期舉辦一次中型學術研討會，以提供師生參與學術交流活動，借此機會與國際上體育學術同好交換新知與心得，並期望透過國際學術理論之研究討論，以帶動我國體育學術之研究發展，提昇我國體育研究水準。

本院歷年所舉辦之學術研討會每次均有其特色，為發揮研討會正面積極之效果，以往我們除舉辦多國間交流外，亦嚐試兩國間之學術研討會。中日兩國歷史淵源相近，文化習俗雷同，地理位置並鄰，以往我們在體育運動科學一直強調西歐、美國之研究，其實亞洲各國在體育運動科學有必要進一步的交流，相信經由此次中日體育運動科學研討會之交流及觀摩學習，是一個很好的理念的開始，未來必可提昇中日今後學術合作與刺激我國體育學術進步。

本次中日體育研討會的圓滿達成，感謝教育部在經費全力支持，及北訓中心在人力上的支援，由於此次會議所發表之領域非常廣泛，對於整個會議資料之彙集與編撰工作倍感繁重，所幸在全體工作同仁全力以赴之下，總算完成編印成冊，祈能對我國體育運動學術提昇有所裨益，並盼望各界賢達對疏漏之處不吝指正，藉以提供本院爾後承辦之參考。

國立體育學院院長 邱金松

1992.4.16

※※※※※ 目 錄 ※※※※※

- 一・日程表
 - 二・會長致詞內容
 - 三・日方教授代表致詞
 - 四・講座名單
 - 五・主持人及口譯人員名單
 - 六・工作人員名單
 - 七・各組論文內容及譯文
 - 八・參加者名單
- 1991 中日體育運動科學研討會

一九九一中日體育運動科學研討會

1991 SINO-JAPANESE CONFERENCE
ON PHYSICAL EDUCATION AND
SPORTS SCIENCES, March 27—28,
Taoyuan, Taiwan, R.O.C.

日程表 PROGRAM

時	間	內 容	地 點
3月27日(星期三)			
08:30		大會交通車由教育部開往國立體育學院	
09:00—10:00		與會學員註冊、繳費，領取大會資料及參觀運動科學儀器展	國立體育學院 綜合體育館
10:10—11:00		開幕式 會長致詞：邱院長金松 貴賓致詞：趙司長麗雲 日方講座介紹與代表致詞： 江橋慎四郎教授 與會人員合影留念 主持人：總幹事李教授寧遠	

- 11：10－12：10 專題演講
 題 目：運動與體適能
 發表人：陳副教授俊忠
 題 目：中國武術未來的發展
 與趨勢
 發表人：翁副教授啟修
 主持人：葉教授憲清
- 12：10－13：30 歡迎茶會及參觀運動科學儀器
 展
- 13：30 分組研討

分組研討 Workshop

運動教練科學組

3 月 27 日（星期三）

- | | | |
|-------------|--|-------------------------|
| 13：30－14：40 | 發表人：北川薰教授
題 目：身體組成與體重控制
主持人：李教授寧遠
翻譯者：黃教授彬彬 | 國立體育學院
綜合體育館
第一會場 |
| 14：40－15：00 | * * 咖啡時間及參觀運動科學儀器展 * * | |
| 15：00－16：10 | 發表人：桜井仲二講師
題 目：運動生物力學
主持人：陳教授俊忠
翻譯者：黃教授彬彬 | |
| 16：10－16：30 | * * 咖啡時間及參觀運動科學儀器展 * * | |
| 16：30－17：40 | 發表人：島岡清副教授
領 域：高地環境和體力
主持人：陳教授金樹 | |

翻譯者：吳教授文宗

3月28日（星期四）

- 08：00 大會交通車由教育部開往國立體育學院
- 08：40－09：50 發表人：宮村實晴教授
題 目：運動和氧輸送
主持人：江教授界山
翻譯者：黃教授彬彬
- 09：50－11：00 發表人：田口貞善副教授
題 目：運動與肌肉
主持人：林教授正常
翻譯者：蔡助理研究員櫻蘭
- 11：00－11：50 閉幕式及專題演講
題 目：關於美國保健體育關係學部的名稱變更問題
演講者：江橋慎四郎教授
主持人：邱院長金松
翻譯者：方教授瑞民

分組研討Workshop

體育人文社會組

3月27日（星期三）

- 13：30－14：40 發表人：木村吉次教授 國立體育學院
題 目：日本學校體育的最近 綜合體育館
動向 第二會場
主持人：許教授義雄
翻譯者：許教授義雄

14：40—15：00 * * 咖啡時間及參觀運動科學儀器展 * *

15：00—16：10 發表人：山本高司教授

題 目：日本運動神經學的研究

主持人：吳教授文宗

翻譯者：吳教授文宗

16：10—16：30 * * 咖啡時間及參觀運動科學儀器展 * *

16：30—17：40 發表人：守能信次教授

題 目：運動社會科學的體育研究

主持人：吳教授萬福

翻譯者：吳教授萬福

3月28日（星期四）

08：40—09：50 發表人：矢部京之助教授

題 目：殘障運動學

主持人：陳教授太正

翻譯者：方教授瑞民

09：50—11：00 發表人：世戶俊男先生

題 目：日本運動商業化的現狀與將來

主持人：袁教授愈光

翻譯者：黃教授彬彬

11：00—11：50 閉幕式及專題演講 國立體育學院

題 目：關於美國保健體育關係學部的名稱變更問題 綜合體育館
第一會場

演講者：江橋慎四郎教授

主持人：邱院長金松

翻譯者：方教授瑞民

各位貴賓、各位體育界朋友們：

謝謝各位朋友蒞臨本次研討會，更謝謝遠道來的日本知名學者江橋教授等十一位講座。此次研討會內容從人文社會到運動科學與管理學，可謂涵蓋甚廣且深，希望藉此對國內體育運動科學水準提昇有所貢獻。本院創校已三年半，每年均舉辦學術研討會已成為本院之一項傳統，雖然每次方向特色各有不同，今後不僅保持一年一次的中型綜合性的研討會，也將嚐試多次較小型、某一單科式、兩國間的學術研討會，由廣面走到較深較精緻化的途徑。

中日兩國文化、習俗相近、地理位置上並鄰，希望藉此彼此多觀摩學習經驗，以提昇彼此今後之學術合作與刺激我們的進步。

在此特別謝謝教育部給我們經費上相當地補助，體總北訓中心的協辦，全體體院人力與經費的投入，使得本院在創校期繁忙下還能有為體育界朋友服務的機會。誠心希望，體育運動科學的進步能為競技的進步、社會體育學校體育的發展與國民健康的增進有所助益。最後謝謝各位貴賓與體育界同仁的指導與參與。敬祝大家健康快樂。

國立體育學院院長 邱 金 松

民國八十年三月二十七日

華日体育スポーツ科学 学術交流会議の開催にあたって

国立体育学院学長 邱 金松

各御来賓の方々と並びに日本より御来台の体育界の皆様、この度の研討会に御参加いただきましてありがとうございます。そしてはるばる日本より御来台下さいました江橋教授と10人の先生方とも心よりお礼申し上げます。

今回の研討会の内容は人文社会に始まり、運動科学や管理学に迄及ぶ巾広いものであり、これが原動力となり国内の体育運動科学の水準を高めるのに貢献出来る事を希望してやみません。

本院は創立されすでに三年半が経ちました。毎年学術研討会を持つ事を本院の伝統的活動の一つとしております。毎回の研討会の内容は年々異なったものであり、今後一年一回のやや規模の大きい総合的な研討会だけではなく、年数回の小規模な研討会も催し、ある時はある一つの事をテーマに又ある時は両国間の学術研討をし始めは巾広く徐々に奥深く追求することが出来る様検討しています。

中日両国の文化、習慣等は非常に似ていますし、地理上の位置も隣り同志です。従って我々は互いに観察し合い両国の学術方面に於いて合作すると共に互いに刺激し合い共に進歩していきたいと思っています。

ここに経費上に於いて教育部の特別な補助に感謝致すと同時

に体育総会北部訓練センターの協賛、全体育院の人力と経費上の協力を得て、本院が創校間なしにも拘わらず体育界に於いて、服務する事が出来る機会が得られたのだと信じます。

体育運動科学の進歩は競技を進歩させるものであり、ひいては社会体育、学校体育の発展、国民の健康増進に寄与するものと信じてやみません。

最後に御来賓の皆様や体育界各位の御参与と御指導を御礼申し上げますと共に皆様の御健康と御多幸を心からお祈りいたします。

華日体育スポーツ科学 学術交流会議の開催にあたって

中京大学教授 江橋慎四郎

本日は、日華体育スポーツ科学会議にお招きいただき深く感謝しております。また、この会議の開催にあたり、いろいろ御準備下さった邱院長をはじめ関係者の皆さんに厚く謝意を表する次第であります。

今回の会議の目的の一つは、体育スポーツ科学の最新の研究成果を、どう実際の学校体育、全民体育あるいは競技の各場面でどう生かしてゆくのかに焦点をあてつつ、日華の指導者の交流をはかるということにあると思っております。

たづ、研究の成果を実際の指導場面を生かすとはいっても、それがすぐ結びつくということは、必ずしも多くはないのであります。その間には、いろいろのスラップがあり、また、条件も多岐にわたるという場合がありますからであります。したがって、たづ短絡的に結びつけるのではなくして、対象となる人間の全体をとらえ、おかれている人の環境や条件を考え、工夫しながら適用してゆくことが必要となるのでしょう。

それは、ちょうど調理師、いろんな材料を用い、栄養の面も考えつつ、おいしく食べられるように、味や見ばえや、さらには、もりつけ、その器までも考えて料理をつくり食前に出すと同じように、種々の配慮を必要とするのであり、たづ、科学の

成果はこうだからといって、なまの素材を提供しても、人はすぐそれにとびつくという訳のものではありません。

ここに、指導の難しさもあり、また、指導者の工夫、努力も必要となってくるのであります。したがって、科学的知見を単にうのみにするのではなく、それをどう上手に料理して、対象となる人々の食前に供し、おいしく食べて貰うどうになるか、指導者の役割であり、指導者の苦勞の存するところでもあると思います。

たづ、体育スポーツの分野は、経験と勘によって指導する時代が長く、科学的研究が飛躍的に深められたのは、せいぜいこの2～30年にすぎせん。また、科学的研究成果を学ぶのは、容易でない面もあり、前にも述べましたように、すぐには適用し得ないという点もあって、實際への応用という点では、まだまだという側面がありますが、このような機会に、科学的研究の成果の一端を素直に聞いて下さって、それを實際の指導にどう生かしてゆくことができるか。いろいろと考えていただける一つの機会になればと思う次第であります。

第二に強調したい点は、体育スポーツ科学の面と、他の分野と同じように、ともすれば、西欧やアメリカのそれに学ぶということに傾りすぎてはいないかという点であります。たしかに、「西欧先進国」という言葉があるように、多くの分野で我々は学ぶことはたくさんあるとは思いますが、それとともに、たいていの歩ゆは稚々としていても、アジア諸国が相互に学ぶあうということが、もっとあって良いのではないかと考えています。

欧米諸国は、たしかに科学技術は発達しており、アジアの国々は、そのような面で遅れているという側面のあることは否定できません。しかし、文化という点からすれば、遅れていると